

文学部ジャーナリズム学科 2年 M.K
『夜は短し歩けよ乙女』 森見登美彦 著

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。そして、在校生の皆さんもご進級おめでとうございます。皆さんは大学生のうちにやってみたいことはありますか。大学生活はたった4年間しかないからこそ、興味のあることや挑戦したいことにとことん取り組んでみるべきだと思っています。

そんな皆さんにある1冊の小説を紹介したいと思います。森見登美彦の「夜は短し歩けよ乙女」です。舞台は京都にある大学。同じサークルに所属する黒髪の乙女に恋をする先輩は、ありとあらゆる手段を用いて彼女を手に入れようと奔走します。一方で黒髪の乙女はというと、先輩の気持ちはつゆ知らず、自由に京都の町を回り、マイペースに日々を過ごしていきます。そんな2人を待ち受けたのは、予想外の出来事の数々。先輩は無事に黒髪の乙女に想いを伝えることができるのか、2人の進展が気になる恋愛小説となっています。

この作品の特徴は、著者の独特な文体によって描かれる魅力的なキャラクターにあると思います。文章を読みながら人物像を想像でき、楽しみながら読むことができます。また、黒髪の乙女と先輩の両方の視点が交互に描かれているので、自然と物語の世界観に入り込むことができると思います。

この作品は、「命短し恋せよ乙女」という昔の歌のフレーズをもじったタイトルとなっています。このフレーズには、若くてきれいな時期も短いので、今のうちに沢山恋をしましよ、という意味が込められています。大学生の今だからこそ、物語の展開にワクワクして夢中になれることでしょう。皆さんもぜひ読んでみてください。

生田分館：J/913.6/Mo54 700915044ほか
神田分館：/913.6/Mo54 701315673

